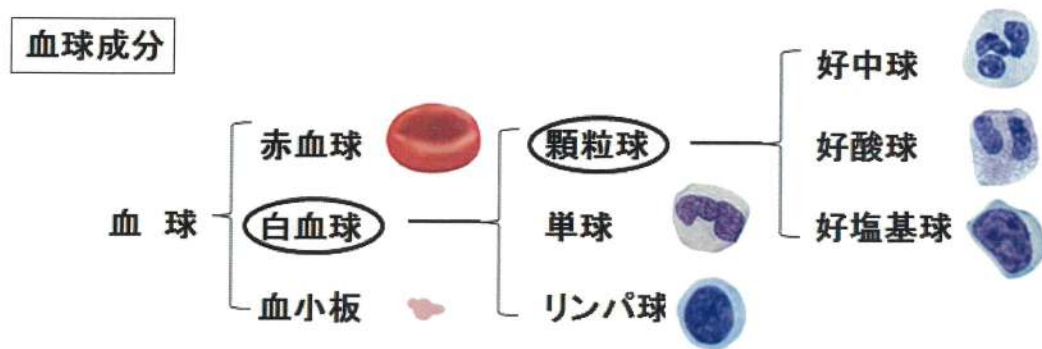


血球成分吸着除去療法をお受けになる方へ

炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）における白血球の関与

人間の身体には、外から有害な敵（細菌、ウイルス、異物など）が侵入した際にそれを排除しようとする免疫機能が備わっています。その主役を担うのが白血球です。炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病）では、免疫機能に異常が生じ、白血球が過剰に働き、炎症にかかわるさまざまな物質を放出するため、腸管粘膜に炎症が起こります。有害な敵が侵入したとのシグナルを受けると白血球は活性化し、血管の壁にへばりつく（接着）能力が出来ます。活性化した白血球は血管壁にへばりついて、血管を裏打ちしている細胞（内皮細胞）の隙間を通り抜けて血管の外に出て、戦場である炎症の場（腸）に向かうのです。



白血球の種類

顆粒球: 細菌などを食べたり、殺菌作用をもつ

単球: マクロファージ(大食細胞)に変化し、細菌や異物を食べ、
リンパ球などに危険情報を伝える

リンパ球: 抗体を産生(Bリンパ球)したり、腫瘍細胞やウイルスを破壊する(NK細胞)
免疫反応を調整する(Tリンパ球)

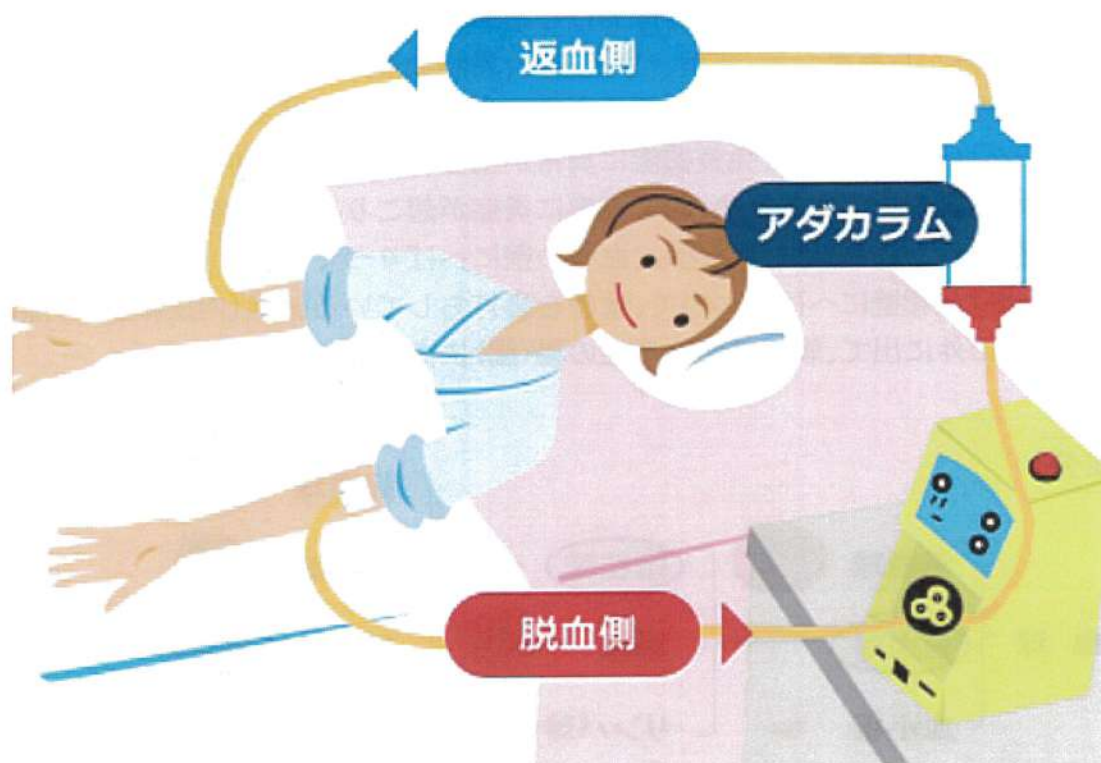
炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎やクローン病）では、生体にとり有害な細菌などに対し防御反応を起こす顆粒球やリンパ球が暴走し、自分の身体を傷害する事態になっています。

血球成分吸着除去療法（顆粒球吸着除去療法;GCAPまたはGMA）の原理と方法

通常約1時間かけて、左右どちらかの肘の静脈からポンプを使って血液を吸い出し、フィルター（アダカラム®）を通した後、片方の肘の静脈から身体に戻します。接着する能力を持った活性化した白血球（顆粒球に加えて単球も）はフィルターを通過するとき内部の酢酸セルロースビーズにへばりつくため、取り除かれます。一方、活性化していない白血球はフィルターを素通りして身体に戻ります。活性化した白血球を一時的に取り除くことにより炎症の沈静化を図るとというのがこの治療法です。

血球成分吸着除去療法により一時的に血液中の白血球が少なくなっても、骨髄から若い

活性化していない白血球が速やかに動員されるので、治療中に減少した血液中の白血球は終了15分後から増え始め、約12時間でほぼ正常の数に戻ります。



JIMROホームページ (<https://www.jimro.co.jp/medical-karyu.php>) より

血球成分吸着除去療法の有効性

現在、ステロイド治療など標準的な治療を行っても改善が見られない中等症から重症の潰瘍性大腸炎または大腸型クローン病に対し、保険適応が認められています。有効性は70%程度です。

血球成分吸着除去療法の安全性は

血液を体外に取り出して身体に戻す治療の間に血液が固まらないようにフサンやヘパリンという凝固防止薬を使用します。まれに凝固防止薬に対するアレルギーやフィルターに対するアレルギー反応を示す方がおられますが、基本的に薬物治療ではないので安全な治療法とされています。

使用成績調査での副作用発現率は、顆粒球吸着療法で7.7%と報告され、主な副作用は、頭痛、脱力感、悪心、発熱、鼻づまりなどで頻度は1~2%であり、一過性とされています。妊婦での使用例はごく少数ですが、問題なく使用されています。

何かご不明のことがあれば、遠慮なく担当医または担当の臨床工学士にお尋ね下さい。